

イネ科通信 40

ヤクナガイヌムギとウドンコ病

ヤクナガイヌムギ 花期はイヌムギよりも早く、護穎の先の芒は長さ 4～10mm(イヌムギは 0～4mm)です。



イヌムギは閉鎖花ですが、ヤクナガイヌムギは黄褐色の葯の下垂するのが目立ちます。内穎は護穎より僅かに短く、また小穂は全体としてやや黄色を帯びることが多いようです(イヌムギでは緑色)。ヤクナガイヌムギの特徴としては葉鞘口部には大きな葉舌が目立ちます(写真1)。多年草であることは引き抜くと一目瞭然です(写真2)。左上の写真はあぜ道に生えたヤクナガイヌムギに発生したウドンコ病のある風景です。

ウドンコ病 被害症状：なんとなく全体がうっすら白くなり、次第に濃くなりうどん粉をまぶしたようになる症状が葉や花首に発生します。葉の表面が覆われると光合成が阻害され、葉から栄養を吸収するので生育不良になり、花が咲かないし、野菜では食味が低下する、果実が肥大しない、ひどい場合には枯死するなどの被害があります。左下の写真(ヤクナガイヌムギ)は葉の表面に僅かな隆起が生じています。白点状の菌群が現れます。葉自体が波を打ったりします。胞子が風で飛ばされて感染します(風媒伝染)。酵素で葉面のクチクラ層と細胞壁を溶かしながら葉の表皮細胞へ侵入し(下の写真左)、更に病状が進めば枯れてきます(下の写真中央)。発芽最適温度は 21 ですが、18～25 で発芽可能です。30 以上では発芽しません。



ウドンコ病には多くの種類があり、中には色々な植物に寄生する種類もありますが、主にそれぞれ違う植物に寄生します。例えば、バラのウドンコ病はバラにしか発生しません。もう一つの特徴としてウドンコ病は生きている植物にしか寄生せず、しかも植物体表面でしか繁殖しません。